

令和7年度
自己点検・自己評価報告書

学校法人常陽学園
専門学校東京医療学院

令和7年度 専門学校東京医療学院 自己点検・自己評価表

1. 教育目標

世界は今、「分断と混乱」の危機に見舞われている。インターネットは世界を繋ぎ生活を豊かにするはずであったが、今では限界が見えてきている。このような世界情勢の中で、人と人がより医療の現場ではコミュニケーションの重要性が求められて来ている社会となっている。

専門学校東京医療学院はこの社会状況を見て更なる「知識、技術そして優しさを持つ、即戦力となる人材の育成」の建学の精神が求められて来ており、障がい者に対する優しい気持ちに共感を持つ理学療法士の育成を目指して行きたいと考える。

教育の現場では、コミュニケーション能力の強化指導、豊かな人間性の育成教育を取り入れた教育をおこなって、カリキュラムの充実を図って行きたいと考えている。

令和7年度 専門学校東京医療学院 自己点検・自己評価表

2. 重点目標・計画

<教育について>

超高齢化社会を迎え、平均寿命は上昇し続け、高齢者に対するリハビリを担当する理学療法士の役割は益々重要性を増して来ている。しかしながら、同時に少子化の問題は当専門学校においても影響を与え、受験生の減少傾向が著しい。このような社会情勢の中で当校の問題点、対応策を述べて見たい。

1. 現代は、精神的ストレスを抱える学生の割合が増加してきている。またこの中には、治療を必要としている学生の割合が増加してきており、彼らに対応する臨床心理士、精神科医などの専門医によるマンツーマンの個別対応の充実が求められ、近隣の専門医の方に指導をいただき、学生への俊敏な対応を行って来ている。特に現代の学生には新型コロナウイルス感染症流行期間の影響もあり、コミュニケーション能力の低下が認められ、学校行事としてコミュニケーション能力の有る学生の育成に更に努めて行く考えである。
2. 理学療法士を目指す学生にとって、教育上必要とされる設備は最新の物が求められ、この点の充実が教育内容の充実にもつながり、実習の充実にも繋がる大事な点である。当校は、予算の範囲で最新の機材、実習設備を常に整える事に努め、教育効果を上げる努力をしてきている。
3. 学生の実習先に関しては、学生が医療の一分野を担当する理学療法士として、主体的に行動の出来る学生像が求められ、充実した医療設備のある医療機関を増やしていくことが重要であり、日々各教員の努力により実習先医療機関の増加に努めている。今後は更に実習生の質、量ともに充実を目指していく予定である。

<学校運営について>

当校は歴史と伝統のある医療系専門学校として長い間社会に貢献してきている。

1. 学外教育システム（専門分野の講演会、学会等）への教員の積極参加をめざし、教員、学生のレベルアップに繋げて行きたいと考えている。
2. 入試に関して、少子化という社会情勢にすばやく対応し医療系学校の中でも教育内容の充実した学校が存在になるべく努力し、少しずつではあるが能力の高い学生も入学してきており、今後とも優秀な学生の確保に努めて行きたいと考えている。そのため学校訪問の強化に努めて行きたい。
3. 仕事に於ける教職員間の関係を密に保つことでお互いに仕事上、またプライベートでも信頼関係を高めることで、理想とする学校づくりを目指している。今後とも学校全体で努力して行きたい。

令和7年度 専門学校東京医療学院 自己点検・自己評価表

3. 評価項目の取組・達成状況				
(1) 教育理念・目標				
評価項目	評価 (4:適切～1:不適切)			
① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④	3	2	1
② 学校における職業教育の特色が明確になっているか	④	3	2	1
③ 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	③	2	1
④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・学生・関係業界・保護者等に周知がなされているか	④	3	2	1
⑤ 各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	③	2	1
<p><課題・目標></p> <p>・新カリキュラムにより新たに追加された教育内容については、必要とされる教育水準に達しているか総括、問題点を洗い出し、当校の教育目標を達成できるようにブラッシュアップしていく。</p> <p>理学療法士として求められる即戦力・実践的な職業教育を提供するため、現場での最前線で働く理学療法士を講師として招き、そのノウハウを生徒に還元していくよう務める。</p> <p>建学の精神及び教育理念を当校ホームページ、パンフレット及び「学修の手引き」（学生便覧）等により周知しているが、今後とも不断の啓蒙活動を強化していく。</p>				
<p><点検・評価></p> <p>・新カリキュラム移行に伴う授業内容・時間数増加に対応した、遠隔授業（同時双方向型）を取入れ学修の機会を確保することに努めて来た。</p> <p>・建学の精神及び教育理念を1階入口に分かり易く掲示した。ホームページリニューアルに合わせ、建学の精神をトップページに表示し、またアドミッションポリシーは学生募集要項のページ上に分かりやすく掲載し本校が求める学生像を示した。</p>				
<p><今後の改善方策等></p> <p>・建学の精神及び教育理念に基づく人材育成の涵養を図るための施策を検討する。また、卒業生の就職先となり得る医療機関等に対し、当校のより良き特色として認知されるよう工夫を行い、努力していく事とする。</p> <p>・理学療法士養成校に対する社会からの最新のニーズを汲み取る施策の内容を検討し実施する。</p>				

令和7年度 専門学校東京医療学院 自己点検・自己評価表

(2) 学校運営				
評価項目	評価 (4:適切~1:不適切)			
① 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
② 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	4	③	2	1
③ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
④ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
⑤ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
⑥ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
⑦ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	③	2	1
<p><課題・目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼間部と夜間部がそれぞれに確立している教育方法及び教育成果の共有・連携を図り、18歳人口の減少や教育的ニーズの変化、災害やパンデミックなど、全学で対処すべき事柄に対応するため、校長を中心にガバナンス強化を推し進める。そのためにも、情報システム化を更に強化し教職員間の情報共有を効率化する。 ・教職員の意識向上に向けたSD・FD研修を行う。効果的な運営に必要な知識・技能を習得し、能力資質の向上を図る。 				
<p><点検・評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人規定及び当校諸規定について、事務局員だけでなく教職員全員が簡便に確認できるよう、イントラネットサーバー上に公開した。 ・法人全体で教職員の能力、資質の向上を目的にSD・FD研修を行い、業務の改善と意識づけを図った。研修テーマは令和8年度からの学校教育法改正により、専門学校は職業教育を行う高等教育機関として明確に位置付けられることを踏まえ、FDの組織的取組みの重要性を認識するべく外部講師による講演を実施した。 ・令和8年4月からの学校教育法改正に伴い、学則を改正した。 				
<p><今後の改善方策等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入したワークフローシステムを利用し、組織的に業務プロセスの最適化を図る。 ・FD・SD研修の取組みを充実させる。 ・学校関係者評価を通じて理学療法士養成施設に求められる社会的意義を確認し、地域貢献を図る。 				

令和7年度 専門学校東京医療学院 自己点検・自己評価表

(3)-1 教育活動 【昼間部】	
評価項目	評価 (4:適切～1:不適切)
① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 ③ 2 1
② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 ③ 2 1
③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 ③ 2 1
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
⑥ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1
⑭ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1
<p><課題・目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士作業療法士養成学校指定規則の改正を見据えたカリキュラムポリシーの策定に取り掛かる。 ・国家資格取得向上のため、カリキュラム編成含めたICT教育等の活用に取り掛かる。 ・職業教育充実のため、臨床実習受け入れ施設の拡充に努める。 ・教員の知識・技能等を向上させるため、積極的に学会等に参加する。 	
<p><点検・評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状におけるカリキュラム編成の問題点を検討し、今後の改正点を整理した。 ・国家資格取得向上のため、1年次からのICT教育導入を目指し検討した。 ・職業教育充実のため、臨床実習受け入れ施設が拡充した。(令和7年度新規施設 4施設) ・教員の知識・技能等を向上させるための学会参加率が維持できた。(令和5年度2023年度100%、令和6年度100%、令和7年度100%) ・SD及びFDについて3月に研修を行い、教職員の意識を高めた。 	
<p><今後の改善方策等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士作業療法士養成学校指定規則の改正を見据えた、更なる授業時間数の増加を見据えたカリキュラムポリシーの検討を行う。 ・国家資格取得向上のため、1年次からのICT教育導入を検討する。 ・職業教育充実のため、今後も受け入れ施設数の確保に努める。 ・教員の知識・技能等を向上させるための積極的な学会参加を促す。 	

令和7年度 専門学校東京医療学院 自己点検・自己評価表

(3)-2 教育活動 【夜間部】	
評価項目	評価 (4:適切～1:不適切)
① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 ③ 2 1
② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1
⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
⑥ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 ③ 2 1
⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1
⑭ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1
<p><課題・目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念に基づく教育活動を検証及び実施し、社会情勢を踏まえた人材育成に取り組む。 ・新カリキュラム完全移行後3年目となり、新たな課題を発見し改善に取り組む。 ・昼間部からの転科希望に対応すべく、昼間部カリキュラムとのすり合わせを継続的に検討する。 ・教員の資質向上の機会を確保し、柔軟に支援を行う。 	
<p><点検・評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム移行により顕在化した課題の改善に取り組み、解決を図った。 ・総合臨床実習においては、学生負担を軽減するため近隣の実習施設を確保するとともに、実習前後の学内学修の拡充を行った。 ・教員の学会等への参加は前年度と同じく全員が参加し、知識・技能の向上に努めた。 (令和6年度100%、令和7年度：100%) ・SD及びFDについて3月に研修を行い、教職員の意識を高めた。 	
<p><今後の改善方策等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラム移行により顕在化した課題を踏まえ、学生のレディネスを高める教育方法の検討が求められる。 ・専任教員の資質向上に継続的に取り組み、その成果を学生教育の充実に還元する。 	

令和7年度 専門学校東京医療学院 自己点検・自己評価表

(4)-1 学修成果 【昼間部】				
評価項目	評価 (4:適切～1:不適切)			
① 就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
② 資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
③ 退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1
<p><課題・目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 理学療法士国家試験の合格率向上に向け、3年次臨床実習終了後からの講義内容、平日の放課後や休日における校舎解放等、可能な限り教育環境の体制強化を図る。今年度の合格目標は90%以上を目標（前年度合格率95.2%） また1.2年生からICT活用における国試合格率の向上を目指す。 就職率の向上や学生が就職活動しやすいように就職説明会や環境整備を行う。 精神的不調や学力不振等にての退学が多いため、補習および精神的不調時における学校対応を検討する。 卒業生の社会的な活躍及び評価を把握するための環境整備を検討する。 				
<p><点検・評価></p> <ul style="list-style-type: none"> 国家試験への教育体制強化を行うも国家試験合格率は87.0%となった。 <p>今後も90%以上の目標達成のための努力を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 国家試験対応について、補習や講義内容の充実およびICT活用等により合格率の改善施策を検討した。また1.2年次からの国試合格率向上のためのICT教育含めた教育体制の強化を検討した。 学生が就職活動しやすいように、本校において求人説明会(12施設)を実施した。 精神的不調者に対する個別面談等を随時実施した。またメンタルケアのため、近隣にあるメンタルクリニックや法人契約のメンタルヘルスカウンセリングサービスの活用を促した。 				
<p><今後の改善方策等></p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も国家試験合格率向上に向けて、講義内容改善や補習強化、ICT教育含めた教育体制の強化を図る。 1.2年生においても、ICT教育含めた教育体制および国家試験合格率の強化を図る。 就職先拡充のための就職説明会や環境整備を今後も行う。 退学率低減のため学生個別の学習進度や精神状況に目を配り、個別面談を含め一人ひとりに合った指導を行う。 卒業後のキャリア形成につながる教育体制を検討する。 				

令和7年度 専門学校東京医療学院 自己点検・自己評価表

(4)-2 学修成果 【夜間部】				
評価項目	評価 (4:適切~1:不適切)			
① 就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
② 資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
③ 退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1
⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1
<p><課題・目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職率向上のため多方面から情報収集を図り、学生の進路選択を支援する取り組みを推進する。 ・スポーツ分野におけるニーズの高まりなど理学療法士の活躍の場が更に多岐に広がるなか、病院や老人福祉施設等の医療機関勤務を念頭とした教育指導に留まらず、社会の潮流を踏まえた教育展開に取り組む。 ・前年度(令和6年度)の理学療法士国家試験の合格率は76.9%であり、全国平均の95.2%を下回った。検証を行い、前年度の合格率及び全国平均を上回ることを目標とする。 ・入学者の学力低下に対し学修支援を引き続き重要課題と捉え、方策を検討するとともに退学者の低減に取り組む。 ・卒業生のキャリア支援を推進し、在校生の成長や社会との連携を深めることで学校の持続的な発展に寄与する。 				
<p><点検・評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士に求められる多様なキャリアモデルについて、関係協会との協議により得た知見を学生に供与しているが、引き続き情報を収集することが求められる。 ・国家試験合格率は、前年度（令和6年度）より大幅に上昇し、目標を上回る全員合格を達成した。（今年度合格率100%、全国平均95.2%） ・退学者は5名であった。そのうち社会適応の困難さを主な退学理由とする者が3名おり、今後の支援体制について検討する必要がある。 ・就職率は100%であり、そのうち90%が医療機関であった。 				
<p><今後の改善方策等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに蓄積した国家試験対策の知見を基盤とし、教員間でコミュニケーションを取りながら指導内容の改善に取り組む。 ・退学理由の推移を精査し、引き続き退学者の低減に組織的に取り組む。 ・学生の進路選択を支援する取り組みを強化し、引き続き一人ひとりの希望や適性に応じた進路実現を支えていく。 				

令和7年度 専門学校東京医療学院 自己点検・自己評価表

(5)-1 学生支援				
評価項目	評価 (4:適切～1:不適切)			
① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
② 学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	③	2	1
④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
⑥ 学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
⑦ 保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
⑧ 卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1
⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
⑩ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1
⑪ 関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか	④	3	2	1
<p><課題・目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・奨学金や当校独自の経済的支援制度をきめ細かく周知し、経済的理由による退学者の低減を図る。 ・年々、精神的に不安を抱える学生が増えているため、保護者との連携を密にし学生の学修状況等の認識に齟齬が生じないように配慮する。 ・同窓会主催による卒後研修について、令和7年度においても卒後教育の強化に取り組む。 ・定期健康診断の項目を検討する。 				
<p><点検・評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等教育の修学支援新制度における学費減免対象者が、家計状況の変化により年度途中で対象から外れることがあったが、貸与奨学金や社会福祉協議会の教育支援資金を紹介するなどし、また学費の延納を承認し退学に至らないよう個別に対応した（経済的理由による退学者0名）。 ・学生との面談を定期的に行い、学修状況や学生生活に不安が見られる場合には積極的に保護者へ連絡し、状況説明を行った。またメンタルケアのため、近隣のメンタルクリニックや法人契約のメンタルヘルスカウンセリングサービスの活用を促した。 ・定期健康診断の項目を前年度より増やして実施した。 ・同窓会主催による卒後研修について、令和7年度は55回開催し卒後教育に注力した。 ・学生が就職活動しやすいように、当校において求人説明会を実施した。 				
<p><今後の改善方策等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・当校独自の経済的支援制度を、より広く周知し、経済的に不安を抱える学生が気軽に相談できる体制を構築すると共に、更なる支援策の充実を図る。 ・新型コロナウイルス感染症だけでなく、インフルエンザをはじめ学校保健安全法に定められた感染症への対策を充実させる。 				

令和7年度 専門学校東京医療学院 自己点検・自己評価表

(6) 教育環境				
評価項目	評価 (4:適切~1:不適切)			
① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
③ 防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1
<p><課題・目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育備品の購入を計画的に進める。 ・臨床実習生の受入れ施設と綿密に連携し、有事の際に緊急対応でき得る体制を整える。 ・備蓄している防災用品の消費期限等を確認し、東京都が推奨する日数分を確保、整理する。 				
<p><点検・評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育備品の整備については、東京都の補助金を活用し、「情報科学」講義で使用する学生用のノートパソコンを購入・更新した。 ・懸案であった創設以来、永年使用していた普通教室の机・椅子、図書室・講堂の椅子を令和6年度、令和7年度の2カ年計画により整備を進めた。 ・教職員のパソコンの基本ソフトwindows 11を購入・更新した。 				
<p><今後の改善方策等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化等により不具合のある教育設備を更新し、適切な教育環境を整える。 ・備蓄防災用品の保管場所となっている講堂を通常の利用目的に戻し、防災用品の整理を進め、備蓄品の計画的な更新を実施する。 				

令和7年度 専門学校東京医療学院 自己点検・自己評価表

(7) 学生の受入れ募集				
評価項目	評価 (4:適切~1:不適切)			
① 高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	4	③	2	1
② 学生募集活動は、適正に行われているか	4	③	2	1
③ 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	④	3	2	1
④ 学生納付金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1
<p><課題・目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNSを利用した広報活動を強化する。 ・ 高校3年生だけでなく、高校1、2年生との接触機会の増加を図る。 ・ ホームページ及び学校案内パンフレットの内容を更新するにあたり、在校生の意見を取り入れる体制を検討する。 ・ 高等学校等に対する情報提供や学生募集活動として、高校訪問や指定校推薦入試を検討する。 				
<p><点検・評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「SNSを利用した広報活動ガイドライン」を作成し、意図せぬトラブルや誤情報の発信を防止しつつ、広報担当教職員による積極運用を開始した。『Instagram』及び『TikTok』を主とし、週ごとに複数回の投稿を継続した。 ・ 令和7年度は広報委員会を中心に入試、広報活動、HPの検討を進め、キャンパスガイド、HPを全面的にリニューアルした。 ・ 令和7年度オープンキャンパスの参加者数は前年比80%であったが、受験者数は前年度並みとなり、入学者数は前年比で昼間部1名減、夜間部で1名減になった。 ・ 高等学校等に対する情報提供や学生募集活動として、高校訪問を行うと共に指定校推薦入試を実施した。 				
<p><今後の改善方策等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNSによる情報発信を継続し、引き続き積極的に情報を発信する。 ・ 志願者の確保を図るため、様々な広報業者にアプローチし情報を収集する。 ・ 資料請求があった方を、オープンキャンパス、学校説明会への参加に導くための方策を図る必要がある。 ・ 卒業生・在校生を輩出した高校を中心に訪問する。指定校推薦制度を紹介して入学者募集を図る。 				

令和7年度 専門学校東京医療学院 自己点検・自己評価表

(8) 財務				
評価項目	評価 (4:適切~1:不適切)			
① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
③ 財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
④ 財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1
<p><課題・目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校舎の老朽化に伴い、中長期修繕計画を策定し順次修繕に取り掛かっている。改修予算も大きな額を要することから、法人本部との協議のうえ方針を決定する。 ・収入基盤である学費収入の安定を確保するため、入学定員の充足及び退学者数の低減を図る。 				
<p><点検・評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・経年により劣化していた、高圧ケーブルの更新工事を行った。実施にあたっては教育活動に支障がないよう計画した。 ・当校の財務状況を鑑み、令和9年度入学以降の学納金を改定した。 ・昨年度に続き、入学定員を充足できなかった。入学定員の充足は喫緊の重要課題である。 				
<p><今後の改善方策等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物管理委託業者と建物・付帯設備の耐用年数について協議を定期的実施し、校舎及び設備の老朽化に対応するため改修を必要とする整備予算の確保に努める。 ・学生納付金収入以外に収入を得る方策を検討する。 				

令和7年度 専門学校東京医療学院 自己点検・自己評価表

(9) 法令の遵守				
評価項目	評価 (4:適切~1:不適切)			
① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
② 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	③	2	1
④ 自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1
<p><課題・目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都による指導調査を想定し、適切な学校運営を図る。 ・法令に基づき、自己点検・自己評価及び学校関係者評価を実施し当校ホームページにて公表する。 ・自己点検・自己評価及び学校関係者評価において明らかとなった問題点を全教職員で共有し改善に取り組む。 				
<p><点検・評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防設備の更新を実施。煙・熱感知機の更新と非常灯・誘導灯をLED化した。 ・令和7年7月に学校教育法の一部を改正する法律の施行に伴い学則の改正を行った。(令和8年4月施行) ・FD・SDの研修会を実施した。 				
<p><今後の改善方策等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も中期修繕計画に基づき校舎・設備老朽化の更新に取り組む。 ・自己点検・自己評価は学校運営に資するものとなるよう今後とも積極的に取り組んでゆく。 ・学校教育法改正に伴う取り組みの強化を進める。 				

令和7年度 専門学校東京医療学院 自己点検・自己評価表

(10) 社会貢献・地域貢献				
評価項目	評価 (4:適切~1:不適切)			
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	②	1
③ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1
<p><課題・目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に対する公開講座等を開催し社会貢献を行う。 ・当校同窓会の勉強会や実習指導者講習会において施設設備を提供する。 				
<p><点検・評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼間部及び夜間部ともに定められた授業時間を確保するためにほとんどの教室を終日使用しており、地域に対する公開講座の開催はマンパワーの問題からも難しい。 ・卒業教育の一環として、同窓会を中心に校内施設を利用した研修会を毎週開催した。 ・東京都中央区の依頼に基づき、区が管轄する審査会に当校の専任教員を派遣している。また、同じく中央区が主催する介護予防事業「通いの場支援事業」にも当校の専任教員が参加している。 ・本校の学園祭を近隣の地域住民との交流を目的に開放・招待し、複数名の参加があった。 				
<p><今後の改善方策等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・同窓会が開催する研修会に地域住民を招待するなど、教育活動に支障が出ない範囲で地域社会と交流する機会を模索し、地域に根差し、開かれた学校運営を目指す。 ・中央区で開催する介護支援事業等への参加を進める。 				

令和7年度 専門学校東京医療学院 自己点検・自己評価表

(11) 国際交流	
評価項目	評価 (4:適切~1:不適切)
① 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4 3 ② 1
<p><課題・目標></p> <p>・定員充足の観点からは、経済的に問題なく優秀な留学生の受入れを検討する必要がある。</p>	
<p><点検・評価></p> <p>・留学生の受入れについて、外国からの志願者を得ることができなかった。</p>	
<p><今後の改善方策等></p> <p>・引き続き医療現場におけるニーズの情報収集を継続する。</p>	